

街の未来について、住民の声を聞くことは、とても重要なことである。なぜならば、通りの雰囲気、息遣い、そしてそこに立ち並ぶ建物について、一番馴染み深いのは、毎日をそこで過ごす住民たちである。そして、その通りがよくなったり、悪くなったりする鍵も彼ら住民が握っていると言えるだろう。毎日の居場所を少しでも良くしていくには、どうしたら良いのだろうか。もちろん、政府や公の事業や助成が必要であることには間違いないが、また、私たちのような他者が意見を言い、蓄積された知恵を共有したりすることも重要なが、住民たちが、自分たちの街の良さに気づき、それを誇りに思えるようになっていくことが、街の未来を保証するもっとも重要な一つの道筋であると私は信じている。

今回は、このワークショップに出席して、出席者が皆、前向きに街のあり方や、歴史的建築の再利用について臨んでいることを、とても遅く感じた。色々な問題があると言うことを、自分たちできちんと認識していることは、スーク・シラーハを良くしていくことの基盤となるだろう。また、6つの歴史的建築に対して、これはいけないというような意見を言う人がいなくて、みんなが修復してみんなの場所として用いたいと考えていたかったことにも安堵している。加えて、女性たちは、今のスーク・シラーハにはなくて、自分たちの生活に必要なみんなの場所を、そこに入れ込むことを、楽しげに語っていた。それに引き換え、男性たちは、根本の問題を重視し、熱く議論をかわしていた。今回のワークショップを男女別に開催したことは、よかったと感じている。私たち、口をつぐみがちな日本人に比べると、スークシラーハの人々は、自分の意見をはっきりと伝えることに、本当に長けていると感じた。

ファシリテーターとしてのサラー教授とアラール氏、そしてその教え子の建築家たちの力は、想像にあまりあるものであった。住民たちとの間をつないで、彼らの意見を引き出せたのは、彼らのおかげである。そして、通訳者の人々にも、お世話になった。みんなの協力の賜物である。

一つ気になった点は、住民の観光に対する意識である。ムイッズ通りのようにしたいという意見があったが、ムイッズ通りには、なんだか生活感が欠けていると私は感じる。一步奥に入れば、スーク・シラーハと同様に、賑わいが街を包んでいるのだけれど。スーク・シラーハの観光化は重要な課題となるであろう。ただ、私としては、ムイッズ通りとは異なった形の、もっと観光に来た人が、そのコミュニティと対話をもち、ただ単に古い建物を楽しむだけの場所ではない方向性を考えて欲しい。

こうしたワークショップを続けていくことは、住民が街の通りや歴史的建築に対する意識を持続していくために重要なことであると考え。それと同時に、いかにして住民の意見を汲み取ったプロジェクトを実現に移していくのかと言うことが、大きな課題であろう。事業の実現のためには、大きなお金が必要だけれど、例えばゴミ問題や道德の問題などは、住民の身近な注意や気づきで、改良される点もあるのではないかと考える。

私は、アジアの東の日本で、イスラーム文明の残した建築文化について研究していて、いつもスーク・シラーハの歴史的建築を訪れるたびに、ここに住んでいる人たちを羨ましく感じている。あんまり近くに居るので、住民の方達は気づいていないのかもしれないけれど、6つの建物それぞれに素晴らしさがある。マンジャク・シラフダールの門の素晴らしい石細工の天井は他に類例がない、イルゲイ・ユーズフィーのサビール・クッターブの特徴的な柱頭と建設の物語はマムルーク朝の歴史を紐解かせ、サビール・シナーン・パシャの赤い色が美しいイズニク・タイルを幾何学的に配置し、ルカイヤ・ドウドゥは真珠の宝石箱のような作品で、ハンマーム・バシュタークの色大理石の入り口から入る伝統的なハンマームはどんなに気持ち良いものだろうと想像し、ハサン・アガー・コーカリアーンはコミュニティの場となったバイトヤカンの入り口に相応しい建築である。これらの素晴らしいモニュメントが、実際に住民たちによって、大切に使われる日を夢見たい。

(連 健 夫)

■1日目、住民ワークショップ（女性）で感じたこと

オンラインであり、アラビア語、英語、日本語の三ヶ国語を扱う難しさがある中、とても良いワークショップになったと感じました。日本側の住民参加のまちづくりの紹介の意図を、アラ―氏とサラ―氏がしっかり受けとめ、スーク・シラーハの更新への思いを参加者に伝えている感じがしました。グループディスカッションは、とても話が盛り上がっている感じがありました。発表では、サラ―氏と住民と一緒に発表し、専門家（建築家）と住民とのコラボレーションを感じました。興味深かったのは、マンジャク・シラーフダール宮殿について、観光利用のみならず、子供たちのための公園ゲート、子供向けのオープンシアターなど、子供の利用が提案されていたこと、またハンマーム・バシュタークでは美容サロンの提案や、サビールでの手工芸品の展示など女性らしい提案があったことです。スーク・シラーハ全体をオープンミュージアムとして捉え、観光に活かすことのみならず、図書や高齢者の文化的利用、コーランを学ぶ学校など、教育や文化に関わる利用が提案されており、外部利用と住民利用の両方の目線があることは、大切なポイントと感じました。



■2日目、住民ワークショップ（男性）で感じたこと

停電でスタートは遅れたが、1日目でできなかった深見さんの6つの歴史的建物の話と、発表後に日本側からのコメントができたことは、全体のまとまりがあり良かったです。つまり、日本人専門家から見たイスラム建築の価値を伝えた上でディスカッションができたこと、住民が日本側からの客観的評価を聴くことができたからです。パソコンから見るグループディスカッションでは、熱い議論が交わされている感じがしました。発表で興味深かったのは、車の混雑や周囲の建物の劣化の問題が話題になっていたこと、住民がこの街の良さを知る必要があると熱弁されていたことです。これに対して、日本側からのコメントとして、住民で話し合うことにより問題を共有することの大切さや、布野先生からのクラウドファンディングの紹介、荒牧氏から川越で住民自身が街の歴史パンフレットを作成したことを紹介されるなど、住民と日本側の専門家がキャッチボールできたことも、今回のワークショップの成果と思いました。



■更新案への意見・提案

住民のアイデアと専門家であるアラ―氏とサラ―氏の思いを、うまくブレンドしていただきたいと思います。以前、アラ―氏から木工製品の展示場所や博物館、事務所が必要という話があり、今回のワークショップの提案にはなかったですが、それらも是非、更新案に入れると良いと思いました。

(布野修司)

議論そのものには参加できませんでしたが、ファシリテーターによってまとめられた参加者の様々な提案をみると、短い時間であったにも関わらず、数多くのすばらしい提案が含まれていると思います。問題は、様々なアイデアをどう実現していくか、だと思います。素晴らしい提案も、実現していく過程では、地区の住民の合意形成が必要ですし、様々な法・制度、行政当局との調整が必要になります。そして、何よりもファンドが必要になります。

まず、提案したいのは、今回のようなワークショップを持続的に行うゆるやかな組織体を住民、専門家、行政当局を含めたかたちでつくることです。そして、できること小さなことから始めるのがいいと思います。また、具体的な活動を広く世界に発信し、共通する問題を抱えた他の地域の人たちと交流し、お互いの経験に学ぶといいと思います。今回、オンラインで参加したのですが、日本のまちづくりにとっても、大きな刺激になると思います。

ファンドについては、イスラームにはワクフの伝統もあります。近年ではクラウド・ファンディングも可能性があると思います。国、行政当局による事業化を期待するうえでも、とにかく小さな実績を積み重ねていく姿勢が必要だと思います。

(岡田保良)

1. 文化財が有形であろうと無形であろうと、参加した住民による自分たちの町の改善に対する活発でかつ多彩な意見交換はきわめて印象的で、私たちの予想を超えるものがあった。同時に、彼ら彼女たちが、自分たちの暮らす町の歴史性やその遺産に対して十分に自覚していることも伝わってきた。

2. 女性グループの間からは、子供たちにとって安全で健全な生活が保障できる町の再生を期待する声が目立ったほか、そこには町の将来に積極的に関わろうとする彼女たちの姿勢がみられた。アラ氏が、「女性は町の柱だ」と指摘していたが、それが単なるリップサービスではないことを実感した。看取する

3. 男性グループの報告からは、町のもつ歴史的な風情や景観をじゅうぶんに認識しているとの自負が伝わってきた。また各モニュメントの活用というより、住民どうしのつながりや、技術工芸など無形的な伝統を大事にしようとする意見が印象に残る。

4. 今までこのような住民の意思を汲み上げる仕組みがなかったとすれば、今後の町づくりにとって、今回のワークショップの企て画は貴重なステップになったのではないか。彼ら彼女たちが、自分たちが共有する遺産として、いまの町なみの保存活用とより住みやすいコミュニティづくりに深くかかわっていくことに対し、私たちが多少なりともそのあと押しができれば、このプロジェクトの意義は小さくないのではないかと思う。

5. この街区が 1979 年に **Historic Cairo** として登録された世界遺産のエリア内である点、その「顕著な普遍的価値 OUV」が何だったかについては、町の変化に合わせて確認し続ける必要がある。ユネスコ世界遺産委員会は、その不完全な保全状況に対して繰り返し改善することを勧告しており、2021 年の委員会決議を見ると、登録範囲の地図すらまだ完成しておらず、個々の建物以上に街全体の劣化が進行していて、もはや不可逆的な状況に達しそうだという懸念が表明されている。そのことは、**Historic Cairo** にとって由々しき事態ではあるが、どこか他の世界にありがちな世界遺産にしがみつくとすることを意味するものでは決してなく、彼ら自らが望むべき町の姿こそ、世界遺産というブランドを維持する方向性であることを信じたい。

(磯野哲郎)

6つの歴史的建造物の利用法についての男女別のグループAとグループB、合計4つのグループの意見には多くの共通性が見られた。その点は、6つの歴史的建造物の利用法について共通意識があると考えられ、多くの地域住民の賛同を得られる可能性を反映していると思う。その一方で、マンジャク宮殿の屋上のレストラン利用（グループB女性）、ハمام・バシュタクに託児所（グループB女性）や美容室（グループA男性）のような個性的意見が見られたことも注目に値する。なぜなら、これらの個性的意見は、修復後の歴史的建造物に経済的、社会的な価値と持続的な運用のための資金源を示唆しているからである。

「観光アトラクションとしての観光利用」と言うのは簡単であるが、観光市場とのリンクや継続的で質の高い運用ができなければ観光利用は成り立たない。そして歴史的建造物の修復という技術的課題へ対応しただけでは、あっと言う間に経営不振に陥ってしまうことを認識しておく必要がある。観光案内所としての利用にしても、コンテンツや人材がなければ案内所として機能しない。詳細には触れないが、安定した経営や運用ができるようになるには、コミュニティ内外にバリューチェーンを作っていくことが必要である。



また、トゥクトゥクや車の乗り入れを禁止にするという意見も注目に値する。実際に適用することは容易でないが、イタリアのベニス、スイスのツェルマットのように自動車を排除している事例は世界各地にある。ヨルダンのペトラ遺跡でも電動カートが導入されている。但し、地下に駐車場を作るという案は、埋蔵文化財を破壊する可能性があり、慎重さが必要であろう。ワークショップで意見はでなかったが、同じ延長線でデジタル技術の導入が考えられないだろうか。IoTや5G通信を導入することで、自動運転の電動カートやロボットによる物資や製品の搬入・搬出、住民の駐車場までの移動を助けることができる。歴史的街区にデジタル技術特区を重ねることで地区の経済社会的価値を高めることができる。景観上で問題になるアンテナはミナレットに組み込むことで解決できるであろう。(TI)



(荒牧澄多)

二日間のワークショップを見て

・男性、女性を問わず参加者全員が積極的に発言を繰り返していたのが、印象的です。日本で、このようなワークショップ行くと、往々にして一人ぐらい傍観者がいるものです。

しかも、男性と女性、場は別でしたが、それぞれの観点から議論されたのはいいですね。

日本ではよほど意識的に参加者を集めないと、どうしても男性の比率が高くなる傾向があります。また、言葉の強い男性の発言に引きずられることもあります。

・今回、具体的に取り上げられた六つの歴史的資産についても、その資産が生まれた経緯、これまでの町のなかでの位置づけ等を、参加者の皆さんが十分に理解されていたことを頼もしく思います。そして、修復の必要性が議論されたことは、大変望ましいことと思いました。その上で、歴史的な使い方に準拠した使い方、新たな提案などが積極的に議論されていたようで、これも望ましい方向だと思いました。

・活用方法を議論するなかで、住民にとってこの地区に不足している施設、機能が明らかになってきたのではないのでしょうか。宗教や政治、歴史的背景を熟知していませんので、具体的な内容については、コメントしにくいのですが、女性の居場所、子供たちの居場所が特に希求されているように思いました。また、地場産業である工芸品を一同に揃えて、広く知らしめる施設も望まれているようですね。

・このワークショップを通して住民が、それぞれ個人として思っていたこと、考えていたことが、他の方々の同様な思いを抱いていたことが明らかになったのではないのでしょうか。住民自らが考えるまちづくりへの、第一歩を踏み出したのではないのでしょうか。

・特に気になったのは、ある男性が、地域を知る必要性を語っていたことです。

生まれ育った場所は、当たり前空間です。いいものは、当たり前すぎて意識に上がってきません。悪いものも、こんなものとそのまま享受してしまいます。わかっているようでわかっていないのが、地域に住まい続けている方々でしょう。これは、万国共通かもしれません。

そこで提案ですが、ワークショップ参加者たちで町歩きを行い、町のいいところ探しをしたらいかがでしょうか。一人で歩くのとは異なり、さまざまな視点から町を考えることができます。

そして、いいところマップやパンレットづくり。地域の歴史や文化を盛り込み。知っているようで知らない町の魅力を、地域の方々へ、そして来訪者に広く知っていただくために。

地域を知ることによって、その地域に愛着を感じるようになります。より住みやすい町に

したいという意識を作っていくことが大事だと思います。

私の住む、川越の喜多町という自治会では、新たにここに住むようになった方たち向けに、町を紹介するパンフレットを作りました。作ってみると、昔から住んでいた人々にも知られていない町の魅力がいっぱい出てきました。

・気になっていることのひとつに、地域のとらえ方です。日本だと自治会や商店会など、ある一定のエリアを母体とした地域コミュニティがあります。カイロのこれまでの様子を拝見すると、同業者の集まりはありそうですが、ある一定のエリアをベースとする商店会や日本の基礎コミュニティである自治会のようなものはなさそうですね。

ワークショップ参加者にとって、一体となってこのまちづくりを進めていくエリアをどのように捉えているか気になりました。

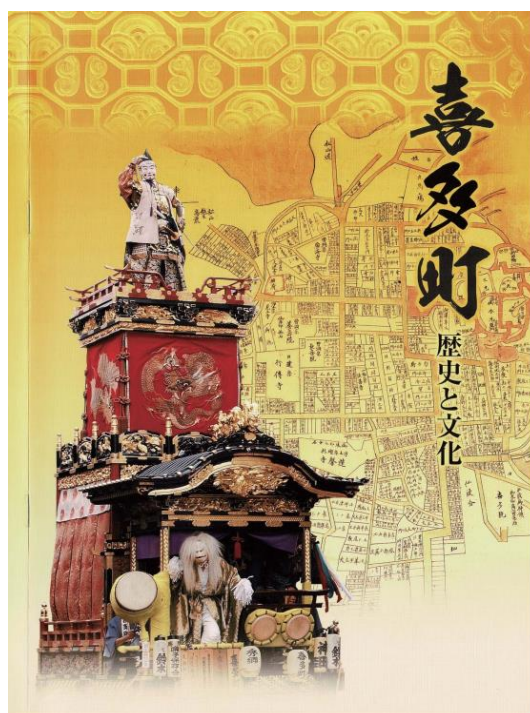
・もう一つ気になりましたのが、ワークショップ参加者の地域での位置づけです。このまちづくりを進めていこうとしているエリアにお住まいの方々にとって、参加者の立ち位置はどんな感じなのでしょうか。

日本の場合、公募された方と地域の代表として推薦された方が参加されることが多くあります。地域からの代表者は、地域の意見を集約して代弁できることが期待されています。

・現地の方へのお願いです。今回のワークショップの議論を、地域の共有とするための工夫をお願いしたいと思います。例えば、簡単なニューズペーパーを作り配布するなど。

川越では、歴史的資産を活かしたまちづくりを考えるワークショップの経過のニューズペーパーを、旧城下町全域の約2,700戸に配布し、情報の共有化を図りました。私が、保存施策の説明に伺った時、その通信を持ち出して、十分理解しているよと言ってくれた方もいらっしゃいました。

・もう一つ、今回のワークショップで出た意見の中で、すぐにできることを見つけてください。どんな簡単なことでもいいと思います。壁新聞一枚でも。自分たちの議論が成果となって現れることは、次へのモチベーションとなるでしょう。



喜多町を紹介するパンフレット
地域内全世帯、事業所に配布

参考までに

交通問題が話し合われていましてが、川越も抱えています。



バスや自家用車、そして観光客向けの
人力車が交錯する川越
2014 年の写真



2009 年に一方通行の社会実験をしました。しかし、周辺地区への影響の大きさ
などから実現していません。



人と自動車とトゥクトゥクが交錯するカイロ

住民の皆さんが地域の問題や魅力について議論している姿に、私はとても感動しました。活動を継続することにより、Souq Silah の地区環境はよりよくなっていくと思います。ワークショップでは、地域や居住環境について色々な意見が発表されました。特に、街路環境の問題、子供たちの安全な環境、歴史的建築遺産の有効利用、観光化に関する意見が多かったと思います。

Souq Silah をオープンミュージアムにしたいという方向性にはとても共感しています。一つ一つの歴史的建築遺産が小さくても、Souq Silah の魅力を生かすことができればオープンミュージアムの実現は可能だと思います。オープンミュージアムでは、地域住民は重要な演者になります。歴史的建築遺産と共に生活する住民の姿こそが、オープンミュージアム最大の見所と言えます。

マンジャク宮殿は、Souq Silah の表玄関と言える場所にあります。地域外からの訪問者に対して、地区のゲートでありシンボルを示すことのできる場所だと思います。Souq Silah で生産される伝統工芸品や手工芸品、食品、菓子などを展示・販売したりする場所に適していると思います。

ハンマーム（公衆浴場）遺構は Souq Silah の中心的な場所に立地しています。ハンマーム周辺は伝統的な広場ですが、交通量が多いため歩行者にとって歩きにくい場所になっています。ハンマームを再建して、昔のままの形と機能を取り戻すアイディアは素晴らしいと思います。また、曜日や時間を分けることにより、観光客と共用することが可能だと思います。歴史的に、ハンマームは地域住民の交流空間としての役割を担ってきました。ハンマームはかつて、女性たちにとってのアフワのような場所だったと言われています。美容院やマッサージ施設を望む意見がおおく見られたことから、女性の交流施設が渴望されていることが推察されます。現在のカイロではハンマーム文化・習慣のほとんどが失われているようです。日常的な使用を目的とした公衆浴場にするのは難しいかもしれません。結婚や儀式、宗教イベントのような特別な機会に利用するようなハンマームにするというアイディアが現実的なように思います。女性住民が日常的に利用できる機能として、共同洗濯場や共同キッチンなどが考えられます。また、女性や子供の日常生活を支援する施設なども候補として考えられます。

Sabil Kuttab に関しては、本来の宗教的機能の再開を望む意見が多くありました。これもやはり、学童保育的な役割が期待されているのだと感じました。Sabil Kuttab を図書館にするというアイディアに賛成です。複数ある Sabil Kuttab を分散型の図書館として活用することで、教育支援や学童保育的な役割を担うことができると思います。それぞれの Sabil Kuttab は書架と学習室で構成され、利用者の年代や性別、分野で分散させることも可能です。

Souq Silah 通りの重大な問題は、やはり交通だと思います。自動車の存在しなかった時代に成立した歴史的都市とその街路は、歩行者のスピードとサイズで形成されています。Souq Silah で車と歩行者が共生するためには、車の乗り入れを制限する必要があります。車の時間帯制限や一方通行制限、人力による車両の導入なども考えられます。また、歩行者優先の空間であることを強調する街路デザインを採用し、自動車がスピードを出しにくくする手法もあります。街路樹を植えることは、景観的、環境的にメリットがある一方、街路の幅を狭くしてしまうデメリットがあります。壁面緑化や街路上緑化という方法もあります。共通デザインのオーニングや庇を建築物ファサードに設置することで、個性的な街路風景を生み出すことができます。

Katsumi Shishido

I was very impressed by the lively discussions at the workshop. I believe that as the activities continue, the environment in Souq Silah will get better. During the workshop, many opinions were presented about the community and living environment. I think we can classify the opinions into three categories: street environment issues, safe

environment for children, effective use of historical architectural heritage, and tourism.

I am very sympathetic to the idea of turning Souq Silah into an open museum. Even if each historical architectural heritage is small, I believe that an open museum can be realized by utilizing the charm of Souq Silah. In an open museum, local residents are important performers. The people who live with the historical architectural heritage are also part of the Open Museum.

The Manjak Palace is located at the main entrance of Souq Silah. I think it is a place where we can show the symbol of the district to visitors from outside. I sympathize with the idea of making it a place to display and sell traditional crafts, handicrafts, foods, and sweets produced in Souq Silah.

The remains of the Hammam (public bathhouse) are located in the central part of Souq Silah. The area around the hammam is a traditional square, but the heavy traffic makes it difficult for pedestrians to walk around. I think the idea of rebuilding the hammam and bringing it back to its original form and function is great. I also think that the hammam can be shared with tourists by dividing it into different days and hours.

Historically, hammams have served as a space for local residents to interact with each other. It is said that the hammam used to be a kind of ahwa for women. From the desire for beauty parlors and massage facilities, we can infer a lack of facilities for women to interact. Today, most of the hammam culture in Cairo is said to be lost. It may be difficult to turn them into public bathrooms for daily use. I agree with the idea of making it a hammam that would be used for special occasions like marriages, ceremonies, and religious events. Other ideas include public laundries, public kitchens, wedding and funeral venues, and child support centers. It is also important that the facility be accessible to female residents on a daily basis.

Many people expressed a desire for Sabir Kuttab to have its original religious use. It may be expected to play a role in the care of school children. I agree with the idea of turning the Sabir Kuttab into a library. Each Sabir Kuttab can be proposed as a decentralized library. Each Sabir Kuttab would consist of stacks and study rooms, which could be segregated by age, discipline, and gender.

A critical issue on Souq Silah Street is traffic. The historic city was formed in a time when there were no cars; Souq Silah Street is a pedestrian-sized street. In order for cars and pedestrians to live in harmony, it is necessary to restrict vehicle access. Time zone restrictions for cars, one-way restrictions, and human-powered vehicles are also candidates. Also, by adopting a street design that emphasizes the fact that it is a pedestrian space, cars will be less likely to speed.

Planting trees on streets has both landscape and environmental benefits. On the other hand, planting street trees also has the disadvantage of narrowing the width of the street. There are also methods such as wall greening and greening on the street. By installing awnings and eaves of common design on building facades, it is possible to create a unique streetscape.

(柏木裕之)

若手エジプト人建築家とともに4回に渡り、スーク・シラーハ周辺の建造物について、推定建造年代や構造、階数や現在の用途、出入り口の位置などについて悉皆的な基礎調査を実施した。1950年代以降に建てられた建造物が多く、鉄筋コンクリートの柱、床と焼成煉瓦壁で構成される現代の建造物も多数を占めた。またシャッターが閉ざされたままの空き店舗も目立った。

歴史的イスラーム建築と呼ぶべき古建造物は、現役のモスクなどの例を除けば、大半が廃墟の状況を呈していた。その要因として1992年のカイロ地震を挙げる住民がおり、応急的な措置のまま放置されている遺構も観察された。歴史的建造物には持送りが多く認められることから、当初は上階を持つ構造であったと推測されたが、現在は崩落し、一階の壁だけが残存する状況にある。工房や倉庫として活用される例も散見されたが、多くはゴミが不法に投げ捨てられ、衛生環境の悪化を招いていた。これらの遺構は政府によって順次解体、撤去される予定で、住民の多くも支持している。だが憂慮すべき現状とはいえ、遺構の消失はこの地区の歴史性の希薄化につながるものが危惧される。そのため取り壊しを安易に進めるのではなく、まずはゴミを回収し、歴史的な建造物として見つめ直し、再評価する時間を稼ぎながら、何らかの活用方法を模索することが望まれる。

一般に町並み保存が模索される地域は、比較的短い期間に集中的に資本が投下され、町並みの骨格が高い完成度で作り上げられたケースが多く、後の世代はそれを維持すればよかった。逆に言えば町並みの保存は、その維持が困難になってきたことに発する。スーク・シラーハ周辺も同様で、モスクとその周囲には石灰岩ブロックによる低層住居群が広がっていたと推測されるが、現在は低層階の上に複数階を増築しているケースも見られ、複雑な様相を呈している。またRC造の現代建築も多く、かつての風景を取り戻すことは容易ではない。まずは点在する歴史的な遺構をいかに維持し、つなげていくかが課題であろう。

現在のエジプトは、重機が唸りを上げ、国土の開発が活発に行われている。その姿はかつての日本のバブルと重なり、そうした風潮の中で古建造物の維持という提言は理解されにくい。だがバブルはいつか必ず弾ける。バブルで多くの歴史を失った日本として、現状維持は後ろ向きではないことを粘り強く伝えていく必要があるだろう。

今回周辺住民による意見交換会を実施した。最高の会議とは知らない人が見たら喧嘩していると思えない会議であるという言葉に改めて実感した。とともに住民の地域に対する深い愛情や歴史的建造物に対する正確な理解、活用への強い関心にも正直驚いた。一方で参加者に地元の職人が少なかった点が気がかりであった。スーク・シラーハ周辺は職住一体のまちであり、特に家具や柱間装置などを作る木工職人の割合が多い。木工のまちとして持続的に発展するためには住居だけでなく、職場環境の改善、向上も欠かせない。今後の大きな課題である。

スーク・シラーハ通りに点在する6か所の歴史的建築などの有効利用等を足掛かりに同地区の暮らしをどの様に改善したいかを地域住民が2日に渡り活発に話し合った。ファシリテーターとして同地域に長年に渡って携わっている2名の建築家が務めたことで、限られた時間で住民の考えを分かち合えたように感じている(写真⑧)。個人的には地域住民の交流の場としてハンマームの復元を望んでいる声が上がったのが、風呂好きの私としては嬉しかった。

参加者が大人に限られていたことにも起因するが、印象深かったのは参加者の方々が同地区の歴史的価値を理解され、景観や街の安全についても懸念されている点だった。地震などで一部倒壊しかけている建物や廃墟の扱い、ゴミのポイ捨て対策、狭い街区内での交通往来の危険と課題は多く、解決もなおざりになっている。事前に地域全体を見て回ったが、緊急度の高い内容も点在している。ここでは官民の垣根を超える発想が求められる。

2日間を経て、予算の確保や責任分界点の明確化と調整事項が多いことは認識しているが、マンジャク・シラフダル宮殿とハンマーム・バシュタークを復元して新しい形態で利用することで地域再生の為の取っ掛かりのシンボルとするのも一案と感じた。何れも劣化が激しく、早期に手を付けることが望まれる建物である。これによって街にも新しい息吹を注ぎ込むことが出来ればバイトヤカンと同様に愛され、地域整備への布石に成り得るだろう。用途次第では観光客の利用も増えれば自ずと注目を浴びるので、ひいては街が文化的に向上すると考える。

その他、浅い知見の中で何点か特に気になった事象について挙げたい。

- ・居住中の建物が倒壊しかけている。行政の早期介入が必要。下記写真①ではアパート頂部が道を挟んで対面アパートに倒れ掛かっている。
- ・廃墟となっている建物の取り扱いを判断して、倒壊する前に必要に応じた補強などの対策が急務。(写真②③)
- ・ゴミのポイ捨てが目立つ。トゥクトゥク同様に公共のルールや社会生活の規律をどの様に根付かせるかは難題。(写真④⑤⑥⑦)



- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧